

ひな人形の飾り方

「私のひな人形」

お母さんのおひなさま。

おねえさんのおひなさま。

そして、大好きな私のおひなさま。



おひなさまはそれぞれのお守りだから、
昔から一人にひと飾りでお祝いしています。





親王飾り

- ① 男雛(おびな)
- ② 女雛(めびな)
- ③ 親王台(しんのうだい)
- ④ 屏風(びょうぶ)
- ⑤ 雪洞(せつどう)
- ⑥ 菱台(ひしだい)
- ⑦ 三方(さんぼう)
- ⑧ 橋(はし)
- ⑨ 桜(さくら)
- ⑩ 飾り台(かざりだい)



飾り方・その1 飾り台



梱包をとき、箱から飾り台⑩と屏風④を取り出し、左の写真のように飾ります。

- 🔥 毛せんがある場合は、まず毛せんを敷きます。
- 🔥 飾り台がなく、毛せんだけの場合もあります。

飾り方・その2 お道具



お道具類を左の写真のように飾ります。(⑤⑥⑦⑧⑨)

- 🔥 左の写真はお道具の標準的な飾り方です。5・6Pの飾り方をご参照ください。
- 🔥 各々のお道具の形状は写真と異なる場合があります。
- 🔥 ⑧、⑨が紅梅、白梅の場合は、向かって右が紅梅、左が白梅になります。

飾り方・その3 お人形



各々の人形(①、②)に持ち道具(3・4P参照)をつけ、親王台③の上に左の写真のように飾ります。後は作札を置き全体のバランスを整えれば完成です。

三段飾り

- | 三段目 | 一段目 |
|-------------------|---------------|
| ① 男雛(おびな) | ⑬ 橋(はし) |
| ② 女雛(めびな) | ⑭ 桜(さくら) |
| ③ 親王台(しんのうだい) | ⑮ 御駕籠(おかこ) |
| ④ 屏風(びょうぶ) | ⑯ 重箱(じゅうばこ) |
| ⑤ 雪洞(せつどう) | ⑰ 御所車(ごしよくるま) |
| ⑥ 三方(さんぼう) | ⑱ 飾り台(かざりだい) |
| ⑦ 菱台(ひしだい) | |
| 二段目 | |
| ⑧ 加えの銚子(くわえのちょうし) | |
| ⑨ 三方(さんぼう) | |
| ⑩ 長柄銚子(ながえちょうし) | |
| ⑪ 官女台(かんじょだい) | |
| ⑫ 高杯(たかつき) | |



飾り方・その1 飾り台



梱包をとき、箱から飾り台⑩と屏風④を取り出し、左の写真のように飾ります。

- 🔥 飾り台の組み立ては同梱の説明書に従って組み立ててください。



- 🔥 下敷き毛せんがある場合は、まず飾り台の下に敷きます。
- 🔥 毛せん飾りの場合は毛せんを下から上へタルミを取りながらピンで止めていきます。

飾り方・その2 お道具



お道具類を左の写真のように上の段から順に飾ります。(⑤、⑥、⑦、⑬、⑭～⑰)。

- 🔥 左の写真はお道具の標準的な飾り方です。5・6Pの飾り方をご参照ください。
- 🔥 各々のお道具の形状は写真と異なる場合があります。
- 🔥 ⑬、⑭が紅梅、白梅の場合は、向かって右が紅梅、左が白梅になります。

飾り方・その3 お人形



各々の人形(①、②、⑧、⑨、⑩)に持ち道具(3・4P参照)をつけ、各々の台(③、⑪)の上に左の写真のように上の段から順に飾ります。後は作札を置き全体のバランスを整えれば完成です。

- 🔥 官女台⑪が付かないタイプもあります。



お子さまと一緒に飾りましょう。

母から娘へ、祖母から孫へ、時を越えて優しい心づかい。美しい心が、美しい表情となる。

平安の世から変わらぬ伝統の技に、限らない愛情をこめて作りあげた雛人形は、幼い心に優しい夢を語りかけます。

親王

笏は右手の親指と人さし指の間に差し込んでください。



太刀は左側の腰と袖の間に差し込んでください。(ひもがついている場合は胴に回して結びます)

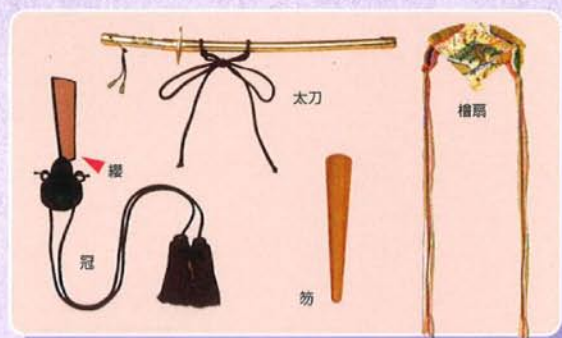


檜扇は開いた状態で両手に持たせてください。



冠のつけ方

冠のひもは、絵のように親指と人さし指で輪を作ってからかけると簡単です。冠をかぶせる時は上部を人さし指で軽く押さえながらひもを結んでください。纓(えい)は冠の後側の穴に差し込みます。



三人官女

加えの銚子は左手を開いている方の官女の右手に持たせます。



三方は座った官女の両手にはさみこむように持たせます。(なお、この官女の顔には眉毛はありません)



長柄銚子は左手を握っている方の官女に両手で持たせます。



三方が島台に変わるタイプもあります。



持ち道具は手に差し込んだり、引っかけるようにして持たせます。もし、うまく持たせられない時には、お人形の手や腕は動かすことができますので、やさしく動かしてみてください。



五人囃子



太鼓は左右の手にそれぞれバチを持たせ、太鼓を台の上にのせ、お人形の前に置きます。

大皮は左手に大皮（絵のない鼓）を持たせます。口を開いている顔のお人形です。

小鼓は右肩の上に小鼓（絵のついた鼓）をのせます。

笛は両手の指の間に持たせます。持たせにくい時は手首が回りますので動かしてください。

扇は右手に持たせます。口を開いている顔のお人形です。



隨身



冠はゴムのものとひもで結ぶタイプのものとありますが、追い毛が頬の横に来るようにつけるのがポイントです。

太刀は左の腰と袖の間に差し込んでください。（ひもがついている場合は胴に回して結びます）

持矢は羽根の方を下にして右手に持たせます。

弓は左手に持たせます。

冠には写真のような形のものがございます。



仕丁

烏帽子はゴムのものとひものタイプのものとありますが、滑りやすいのでなたかに抑えていただくとうまくかぶせられます。



台笠は右手を挙げた仕丁の手に差し込むようにして持たせます。



沓台は両手を開いた仕丁の手にはさむように持たせます。

立傘は台笠と同様に左手を上げた仕丁に持たせます。



雛人形の京風飾り方

京風セットの場合 ● 仕丁の手の形が違う場合があります。その場合は向かって左側から泣き顔・怒り顔・笑い顔の順に並べます。● 烏帽子は首からぶら下げるようにします。（ペシャンコの烏帽子です）

くま手は向かって左側の仕丁の前に置きます。

チリ取りは真ん中の仕丁の前か横に置きます。

ほうきは向かって右側の仕丁の前に置きます。





親王飾りいろいろ



平台飾り



雛

毛せん飾り



高床台飾り



立雛

立雛飾り



京雛

平台飾り(京風)

木目込み飾りいろいろ



木目込み親王飾り



木目込み二段(五人)飾り



木目込み三段(十人)飾り



木目込み五段(十五人)飾り

ひな人形にはいろいろな種類・飾り方があります。ここでは代表的な飾り方をいくつかご紹介します。ひな人形はセットによって様々ですので、飾り方やお人形・お道具類等、ご購入の商品と掲載の写真が異なる場合があります。

段飾りいろいろ



毛せん二段(五人)飾り



毛せん三段(五人)飾り



毛せん三段(五人)飾り



木製三段(五人)飾り



木製三段(五人)飾り



木製三段(十人)飾り



木製五段(十人)飾り



木製七段(十五人)飾り



毛せん五段(十五人)飾り

天気がよくて、湿気のない日にしまいましょう。 ひな人形の正しいしまいかた

よごれたまま
しまわないでネ



お人形の顔や衣裳、お道具類
には、ホコリがついています。
毛ばたきでよく落としてから
しまいましょう。

あゝ!!
だめであふ



顔や手の部分は素手でさわらないように
してください。顔や手のところは、柔らかい
紙(ティッシュ等)でくるみます。

持ち道具は取り外して、
それぞれ決まった袋の
中に入れましょう。

ことしも
たのしがつたなあ



お人形やお道具をそれぞれ柔らかい
紙でくるんで、ホコリがつかない
ようにしてください。

お人形やお道具は、それぞれ決まった
箱の中に納めてください。飾る際に箱を
開けた時の収納状態を写真に撮っておく
としまう時に便利ですよ。

ぼくは
あっちであふ



来年まで
さよならだね



大きな箱の中にいくつかの
お人形やお道具を入れる
場合には、中でぶつからない
ように、隙間にうす紙などを
軽くつめてください。

防虫剤を入れてよいか
どうかは、表示ラベル
などをよく見て確かめ
ましょう。防虫剤を入
れる時は、お人形専用
防虫剤が最適です。



ちゅっちゅって!!

しまい方7つのポイントアドバイス

◆おひなさまはいつしまうの?

- ひなまつりが終わった後、なるべく早くしまうとされていますが、
天気がよく、空気が乾いている日を選んでおしまいください。天気
の悪い日は、湿気を含んでおりカビや虫食いの原因になります。
- 早くしまわないと婚期が遅れるなどと言いつたえられていますが、
特に根拠はないので気にする必要はありません。それより長い
年月飾る人形ですから、しまい方(保存状態)が重要です。

◆ひな人形の片づけに必要な道具は?

- **毛ばたき**……ホコリを払うとき使います。
- **柔らかい紙**(ティッシュ等)……お人形の顔を包みます。
- **乾いた布**……塗りの部分の乾ふきに使います。
- **うす紙**……お雛さまが動かないよう、すき間に柔らかく丸めて
包みます(新聞紙等で代用できます)。
- **防虫剤**……お人形、ぼんぼり、桜橘に入れます。

- 防虫剤はひと箱に1個とし、おひなさまなどに直接触れないように注意してください。
また樹脂製品には入れないでください。表示ラベルでお確かめください。
- 違う種類の防虫剤を一緒に入れないでください。(例/ナフタリンと樟腦)
また、毎年同じ防虫剤を使用するようにしてください。



安全に関するご注意

保護者の方へ/必ずお読みください。

- 小さなお道具がありますので、お子さまが
なめたり、誤って飲み込まないようにご注意
ください。窒息などの危険があります。
- お子さまによる製品の取り扱いに際しては
事故・破損等、十分にご注意ください。
※ 観賞用以外には使用しないでください。